

【田舎暮らし体験をとおした地域との交流、地域づくり活動について】

F： 「クラインガルテン四万十」で非常に快適に田舎暮らしを体験していきまして、地域の方とのコミュニケーションを図りながら、何とか少しでもお役に立ちたいと考えて日頃ささやかですが取り組んでいることを3つお話させていただきます。

まず1つ目は、間伐活動についてです。最近、最後の清流四万十川が汚れていると言われますが、それは、植林したけれども間伐が行き届かず山が荒れているからです。そこで、今、「クラインガルテン四万十」の8名が山を守るボランティア団体「朝霧森林クラブ」のメンバーになり、間伐活動をしています。それをきっかけに、我々の活動範囲も広がって、2回の間伐の他、四万十川沿いの雑木の剪定や剪定した雑木の炭焼きなどにも協力しています。

間伐活動を通しての課題は、私たちが行っている間伐は、その90%が（あとで利用しない）切り捨て間伐で、もったいないと感じています。その間伐材を何とか、有効に利用したいと日頃から思っています。

また、「朝霧森林クラブ」には総勢30名ほどの会員がいますが、なかなか裾野が広がらないという課題もあります。チェーンソーを使わなくても、山へ入って下草を刈ったりできると思うので、森林保全ボランティア団体同士の交流や、底辺を広げる意味で、もっと広く参加者の募集などPR活動ができればと考えています。高知県には「森林環境税」があるので、もっと裾野を広げて高知の財産の森林を守ろうという活動に活用していったらと思っています。

2番目に、へんろ通りの吉見町を中心に空き店舗が随分ありますが、その空き店舗を利用した地域活性化活動を、物、人、環境の頭文字を取って名付けられた「モ・ヒ・カン協議会」に「クラインガルテン四万十」の住民とともに参加し、イベント時の店番や、準備、手助けといった形で協力しています。高知県にはたくさん商店街がありますが、イベントをするにしてもPR費がない。活動費も少ないこともあるので、何か抜本的な仕組みづくりを県で考えていただきたいと思います。いろいろなイベント情報を単発で広報誌やPR誌に出すのではなく、地域ごとのイベント、季節ごとのイベントを総合的に紹介して、特に、四万十町は「海洋堂ホビー館四万十」がありますので、これと有機的に結びつけてほしいと考えています。

3番目に、内閣府が「地域社会雇用創造事業」の一環として実施しているグラウンドワークインターンシップに参加し、私も、環境まちづくりの成功事例を静岡県三島市に見に行ってきました。四万十町のような素晴らしい環境を保全し、地域の活性化につながる活動をもう少し具体的に進めていけたらと思っていますので、是非とも、県職員の参加検討をお願いします。

その他の課題としては、我々の仲間の中には、高知県への移住を念頭に四万十町で田舎暮らし体験をしている人も多いため、県内の空き家情報を一元化していただきたいと思います。和歌山県が先進的で、県内統一の契約書を作成していると聞いています。その辺を

少し参考にして、借り手と貸し手の橋渡しを行政の方でうまくしていただけたらと思います。

最後に、私は大阪の百貨店で35年働いていましたので、その時に培ったネットワークを活用して、いろいろな橋渡しができるのではないかと感じています。

特に私がおもったいなと思っているのは、「農業組合法人ビレッジ影野」で乳酸菌を混ぜた肥料と、農薬の代わりにカルシウムで病気を防ぐといった取り組みをしているのに、販売は通常ルートでの販売で、せっかく付加価値があるのにもったいなと思います。量販店で販売するためには数量が必要ですが、百貨店で販売する場合は、少量でも大丈夫です。ちょっと視点を変えて、百貨店を販売先にするのであれば、協力できるのではないかと感じています。

今後の展開としては、とりあえず「クライנגルテン四万十」の認知度を上げたいとされていて、各地域から「クライングルテン四万十」に来ている人達の情報ネットワークをベースに、積極的に地域の活動に参画させていただいて、地域の皆さんに少しでもお返しできたらと思っています。

「クライングルテン四万十」でもスタッフの方がいろいろな企画を用意されていて、私達利用者も意見を出しています。人口が減少している中、婚活が非常に課題になっているようで、8月には県の「出会いのきっかけ応援事業」にもなっている「大人の夏休み」というイベントが開催されます。この企画は昨年から実施していて、ゴールイン間近の方もいると聞いています。この出会いをきっかけに、ゴールインをされる方にはクライングルテン・ウェディングを企画してもよいと思います。

知事： まず、今までに培われたネットワークを活用して、高知県の地産外商活動にいろいろお知恵を貸していただけるということで、大変ありがたく思っています。これから、更に百貨店とのネットワークを作っていきたいと思っていますので、よろしく願います。

おっしゃるとおり、地域ごと、さらには生産者さんごとに独特の付加価値を付けた商品を、流通する時にどう反映できるようにするかが非常に大きな課題です。「系統販売にすると個性が死んでしまうから、やる気のある人は系統販売に参加しなくなってしまう、だから系統販売はよくない」と言われたりもします。

しかし、まとまって売るから、少量しか出荷していない高齢者の方にも大量出荷した時と同じような値が付くということもあって、やはり系統販売が高知県農業を支えてきたことは間違いないことだと思います。ただ、系統販売では個性が死んでしまうからといって、やる気のある人ほど参加しなくなるということではいけないとも感じています。系統としてまとまっているのだけれども、個性を生かした流通をするということで、生産者の顔が見える販売や、プライベートブランドを作るなど、県としても少しずつ取り組み始めています。そうすれば、系統出荷でも個性を出しながら、しかし、全体としてはまとまってい

くことができるのではないかと、その仕組みを、今模索しています。

ただ、商品が少量でもしっかりお金に変えていく仕組みも模索するべきだと思います。

F： それだけではなかなか商売にならないと思いますが、ニーズや情報が取れるので、顧客名簿をいかに活用するかということが一番のポイントじゃないかと思います。

産業振興推進部長： アンテナショップ「まるごと高知」でも、顧客情報を重要視しています。いろいろなカードを作って、管理し、情報発信に取り組んでいます。

地産外商面では、いろいろなアドバイスをいただきたいと思っておりますが、さきほどお話にもありました婚活や移住、それから地産外商、林業関係、空き家情報、全て高知県の重要課題です。空き家情報の一元化につきましては、県と宅建協会などが契約を結んで、取り組みを進めるようにしています。

なお、我々行政職員も地産外商には非常に敏感になっておりまして、「まるごと高知」でお歳暮などチャレンジしましたが、商品力が弱いことを実感しながら頑張っており取り組んでいます。是非、今後ともお力添えよろしくお願ひしたいと思ひます。

知事： 間伐についてですが、森林保全ボランティア団体のネットワークづくりが非常に重要なことだと思います。森林環境税を使ったネットワークへの支援もさせていただいています。高知県では、自伐林家の皆さんと一緒に取り組んでいこうという、林業行政も進めています。機械類の導入経費の補助や、技術支援も行っていますが、何と言ってもネットワークが大事だと思いますので、(県に登録された森林保全ボランティア団体で構成する「こうち山の日ボランティアネットワーク」という県全域のネットワークについて)紹介させていただきたいと思ひます。

移住の件については、和歌山県の事例、勉強してみます。ありがとうございます。また、グラウンドワークインターシップについても、勉強させていただきたいと思ひます。

「クライנגルテン四万十」で、「出会いのきっかけ応援事業」をやっているんですか。「出会いのきっかけ応援事業」は、もともと、この「対話と実行」座談会の田野町での取り組みのお話を聞いて、県でも始めたものです。「クライングルテン四万十」を、そういう風に活用していただくというのはありがたいことです。

「クライングルテン四万十」は、四万十町の皆さんが長年、情熱を注いでこられて、我々も移住政策として最終段階ぐらいから施設整備や運営等でお手伝いさせていただいているんですが、いろいろな形で活動を広げられていて、嬉しく思っています。本当に素晴らしい事業だと思います。